



鳥次

特 別
子 12
3656
6



早河



是に後國一見乃傍みそは
 いまの陸奥うとの濱をさへ
 ちとふうとの濱一見とあはれ
 さして人又よきはつてなれハ
 ち山祿をアさしやとあはれ
 願よあはれさへあはれ
 一見さへあはれさへあはれ

わさよはちよよさつさつ神の
あつわな海地獄に接するも
をうねぬ人のうねる神のわ
なをたろうろや山海より
らまゝにけりんおかくと思はれ
噴流うも海も実よめえは
熱恍惚心可也こ山下よりう

下わち

なま

法僧よす入葉もおんはあは

事少てんう河事よそらう

陸奥へはわわんはそことほそ

中あうとの演とこ

あそんひーものこらうお秋

まらわこふま葉也子のやと

シテ

信初人てう神ふ人義道を向て
 く眼もと信く 早行 是の思ひも
 よ〜ぬ事 汝の人物おと〜き
 中へ委す 安き頃乃信すな終
 其志なす〜うを信おぼして
 やる信願引くき 早行 又た〜り
 な信願あ〜ていりひあは〜り

思ひ出 ころあ〜り世にらたに
 時よりは解のきうに度きぬ乃
 袖をときく 上り月し 是をきく〜も
 涙をうへてうひ衣づく ちあま
 おくそあ〜い書や燃乃立山お
 下 けめも〜ゆりきくとお信ハ
 奥へくた〜い七光ハあ〜く

中へ委由む何ぞしれし一程よ
うろたふさよしにやうは歌引人
へ葉とりてらんいあそは衣乃
袖をときをたまりりて人程よ
見まうて持て葉とりて人思る
あそはる事おんあそはれハ
ゆめうや海様や四季乃田長乃

詞

たそ人乃う人きあへぬ海は
おなうあまうわぶこもたなま
清事なれいしきやういし
義代衣まも成よふまするあ袴
はも久しき形見なう
おちしき神ハ新ひも
なはなはくふれ為衣く一重

早ふ丸一

上あ月

なわを必号皆火ふは消ぬ
焦熱大焦熱なわとも法水ふは
あたしをなすは方におもき
飛科乃心の月ややすた乃
を黙をころころ宿罷ぬ露露
恵日お日よすす所へは僧
上の陸奥おくおくふ海ある

松原乃志所えよまうは梅を
未引志はるう墨乃歌の時乃
若る飛うふとひままり
あや月のたあふはうとの濱心
ありくる位居おくあ
いほくこちも消えんと
親子をよ手成とわくはるる

うらわなふは横井 嘉や
いもへいも契り書也
しもさうも音よあま
やすこの香乃屋すも
かすふころらんり子の
いもふもるるあう香
歎ももふらめとちよ

髪をうきかてくあな
やといとすま横井
雲おぬるかあやぶ
とさ見え姫小松おさ
い所くに末湯ま登う
和田乃笠松や箕面の
我袖よかや車都踏め

刃を以てもぐりて
他者とならば罪人を以て治すは乃
リをたすをたすき銅を
流をと義立てて眼を清りん
志をむく成すけりやと治す
糖火のわらわらむをて弱を
あをえぬはを香をころ

科やんふくんと治すは乃
えぬ冬ぬ米とわたりん
うとういりてたあとなら
月二二二二二二二二二二
我の衆をう成るを乃
あの子を持て乃ぬときよ
わらわら地を以て大なる
とめりてあを治す

